

## 方法書に係る調査手法について（概要）

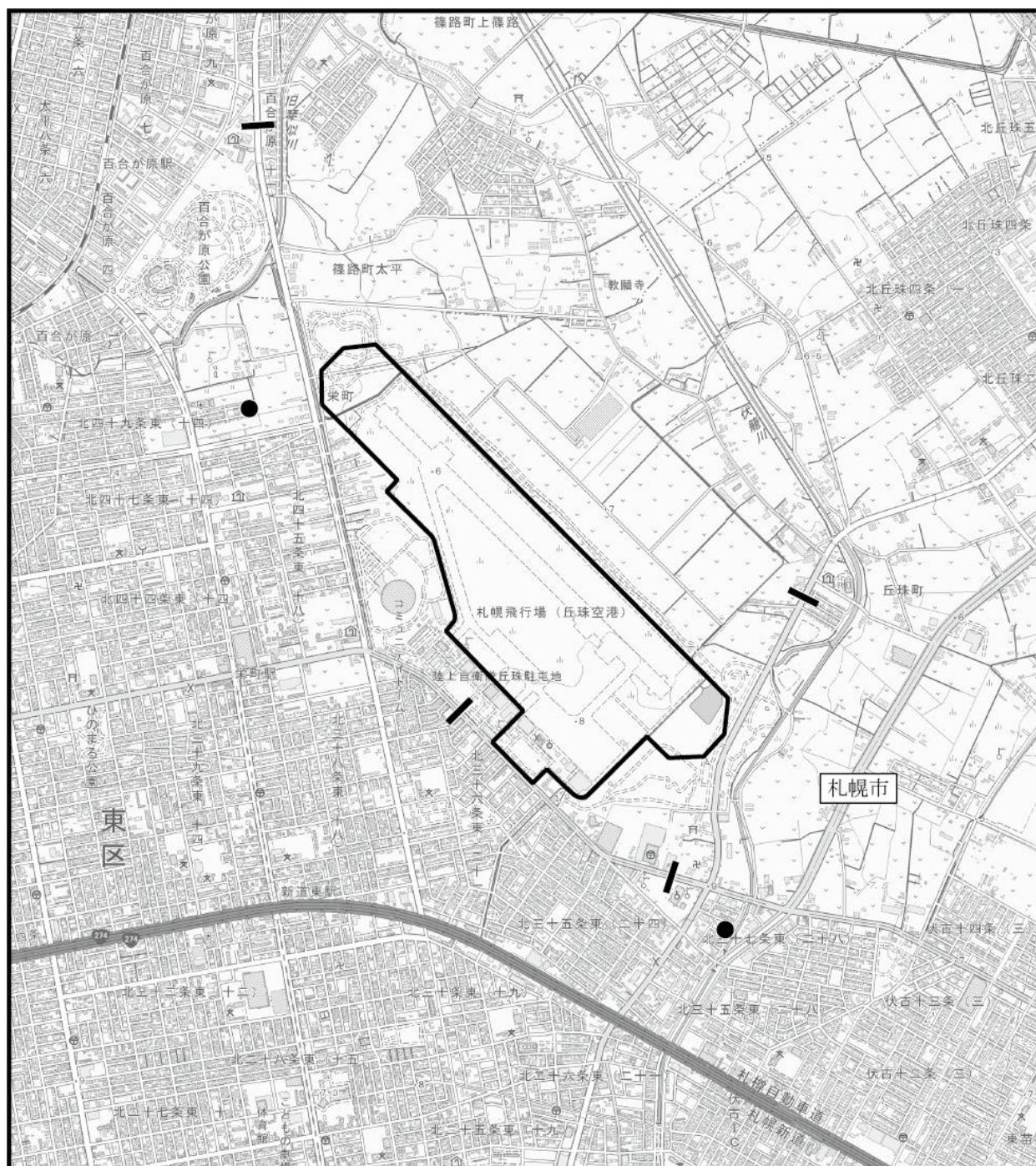
方法書において選定する予定の環境影響評価項目について、選定事項の特性、事業の特性及び影響想定地域の概況を踏まえて、本事業に係る調査手法を選定しました。各環境影響評価項目における現地調査の内容（概要）は、以下に示すとおりです。（※調査地域・地点の詳細は、P.4以降の図（配慮書抜粋）を参照）

なお、このほか既存の調査資料を収集・整理・解析する方法による調査を実施します。詳細は「札幌飛行場滑走路延長事業 計画段階環境配慮書」の「第6章 方法書に係る調査手法」をご確認ください。

調査内容		調査方法	調査地域・地点	調査期間・時期
大気質	二酸化窒素	「二酸化窒素に係る環境基準について」に定める方法	一般環境2地点 道路沿道4地点	年4回（四季） 各7日間
	粉じん	降下ばいじん計（ダストジャー法等）による試料の捕集及び分析による方法	//	年4回（四季） 各1カ月間
	浮遊粒子状物質	「大気汚染に係る環境基準について」に定める方法	//	年4回（四季） 各7日間
	風向・風速、 気温・湿度	「地上気象観測指針」に定める方法	//	年4回（四季） 各7日間
	道路の状況	道路断面構造、規制速度、沿道の状況を記録する方法	道路沿道4地点 (「二酸化窒素-道路沿道」に同じ)	適切かつ効果的に把握できる時期
	交通量の状況	数取計で車種別・上下線方向別の毎時間交通量、平均走行速度を記録する方法	//	通常的な平日及び休日の各1日24時間連続
騒音	環境騒音	「騒音に係る環境基準について」及び「環境騒音の表示・測定方法」に定める方法	4地点	通常的な平日の1日24時間連続
	道路交通騒音	「騒音に係る環境基準について」及び「環境騒音の表示・測定方法」に定める方法	4地点 (「二酸化窒素-道路沿道」に同じ)	通常的な平日及び休日の各1日24時間連続
	航空機騒音 ※札幌市から提供	「航空機騒音に係る環境基準について」に定める方法	12地点	年2回（夏冬） 各7日間
	道路の状況	「大気質」に同じ		
	交通量の状況	「大気質」に同じ		
振動	環境振動	「振動規制法施行規則別表第一」及び「振動レベル測定方法」に定める方法	4地点	通常的な平日の1日24時間連続
	道路交通振動	「振動規制法施行規則別表第二」及び「振動レベル測定方法」に定める方法	4地点 (「二酸化窒素-道路沿道」に同じ)	通常的な平日及び休日の各1日24時間連続
	道路の状況	「大気質」に同じ		
	交通量の状況	「大気質」に同じ		

調査内容		調査方法	調査地域・地点	調査期間・時期
振動	地盤卓越振動数	「道路環境影響評価の技術手法」に示された、振動ピークを1/3オクターブバンド実時間分析器を用いて周波数分析を行い、地盤卓越振動数を把握する方法	4地点 (「二酸化窒素-道路沿道」に同じ)	適かつ効果的に把握できる時期
低周波音	低周波音の1/3オクターブバンド音圧レベル、G特性音圧レベル	「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に定める方法	12地点 (「航空機騒音」に同じ)	年2回（夏冬） 各2日間
水質	浮遊物質量(SS)、全窒素(T-N)、生物化学的酸素要求量(BOD)、化学的酸素要求量(COD)	<ul style="list-style-type: none"> <li>SS：「水質汚濁に係る環境基準について」付表9に基づく方法</li> <li>T-N、BOD、CODは日本産業規格K0102-45、K0102-21、K0102-17に基づく方法</li> </ul>	4地点	<ul style="list-style-type: none"> <li>SS：年4回（四季）、降雨時3回</li> <li>T-N、BOD、COD：年4回（四季）、防除雪氷材使用時期1回</li> </ul>
	流量、流れの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>流量：「水質調査方法」に定める方法</li> <li>流れ：目視で確認する方法</li> </ul>	〃	年4回（四季）、 降雨時3回、 防除雪氷材使用時期1回
	土質（粒度組成、沈降速度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>粒度組成：日本産業規格A1204に基づく方法</li> <li>沈降速度：日本産業規格MO201-12に基づく方法により試料のSSの濃度を測定し把握する方法</li> </ul>	2地点	適かつ効果的に把握できる時期
植物	植物相及び植生の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物相：任意踏査法</li> <li>植生：任意踏査法、植物社会学的手法（ブラウン・ブランケ法）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施想定区域及びその周辺約200mの範囲及び丘珠川等周辺</li> <li>水生植物：7地点</li> </ul>	年3回（春夏秋）

調査内容		調査方法	調査地域・地点	調査期間・時期
動物	動物相の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哺乳類：目撃法、フィールドサイン法、トラップ法、バットディテクターによる方法</li> <li>・鳥類（一般）：ラインセンサス法、任意観察法、定点観察法により出現した鳥類を記録する方法</li> <li>・鳥類（猛禽類、バードストライク）：定点観察法</li> <li>・昆虫類：目撃法、任意採集法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法</li> <li>・両生類、は虫類：目撃法、直接観察法</li> <li>・魚類：投網、タモ網、サデ網等を用いる捕獲法</li> <li>・底生動物、その他の水生動物：Dフレームネット、サデ網等を用いる捕獲法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哺乳類、昆虫類、両生類、は虫類：事業実施想定区域及びその周辺約200mの範囲</li> <li>・鳥類（一般）：4地点</li> <li>・鳥類（バードストライク）：4地点</li> <li>・鳥類（猛禽類）：4地点</li> <li>・魚類、底生動物、その他の水生動物：7地点（「水生植物」に同じ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哺乳類、鳥類（一般）、鳥類（バードストライク）：年4回（四季）</li> <li>・鳥類（猛禽類）：2～8月頃の各月1回2日間連続</li> <li>・昆虫類、両生類、は虫類、魚類、底生動物、その他の水生動物：年3回（春夏秋）</li> </ul>
生態系		「植物」「動物」に示した現地調査による方法	事業実施想定区域及びその周辺約200mの範囲及び丘珠川等周辺	「植物」「動物」に示した時期
景観	主要な眺望景観の状況	現地踏査及び調査地点において写真撮影を行い、事業実施想定区域方向の眺望の状況を把握する方法	5地点	適切かつ効果的に把握できる時期の年2回（夏冬）各1日
人と自然との触れ合いの活動の場	分布、利用の状況及び利用環境の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地踏査し目視確認する方法</li> <li>・利用の状況：カウンターを用いて利用形態別の利用者数を計測する方法</li> </ul>	5地点	年2回（夏冬）各1日



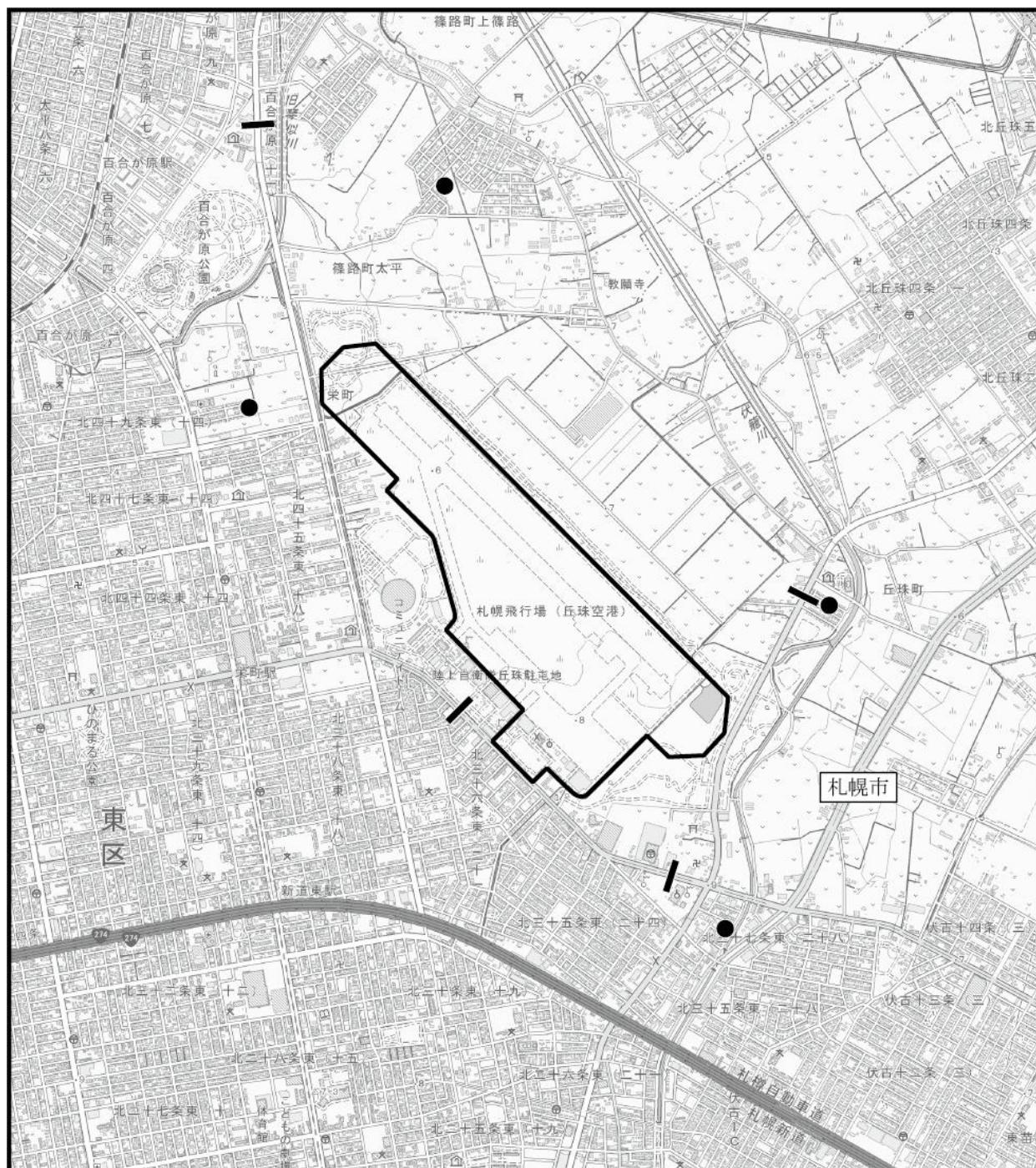
凡 例

図 6.1-1 (2) 大気質に係る調査地点

- : 事業実施想定区域
- : 大気質（一般環境大気）、気象（風向・風速、気温、湿度）
- | : 大気質（道路沿道大気）、気象（風向・風速、気温、湿度）、道路の状況、交通量の状況

N  
1:25,000  
0 0.5 1km

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2万5千分の1を使用したものである。



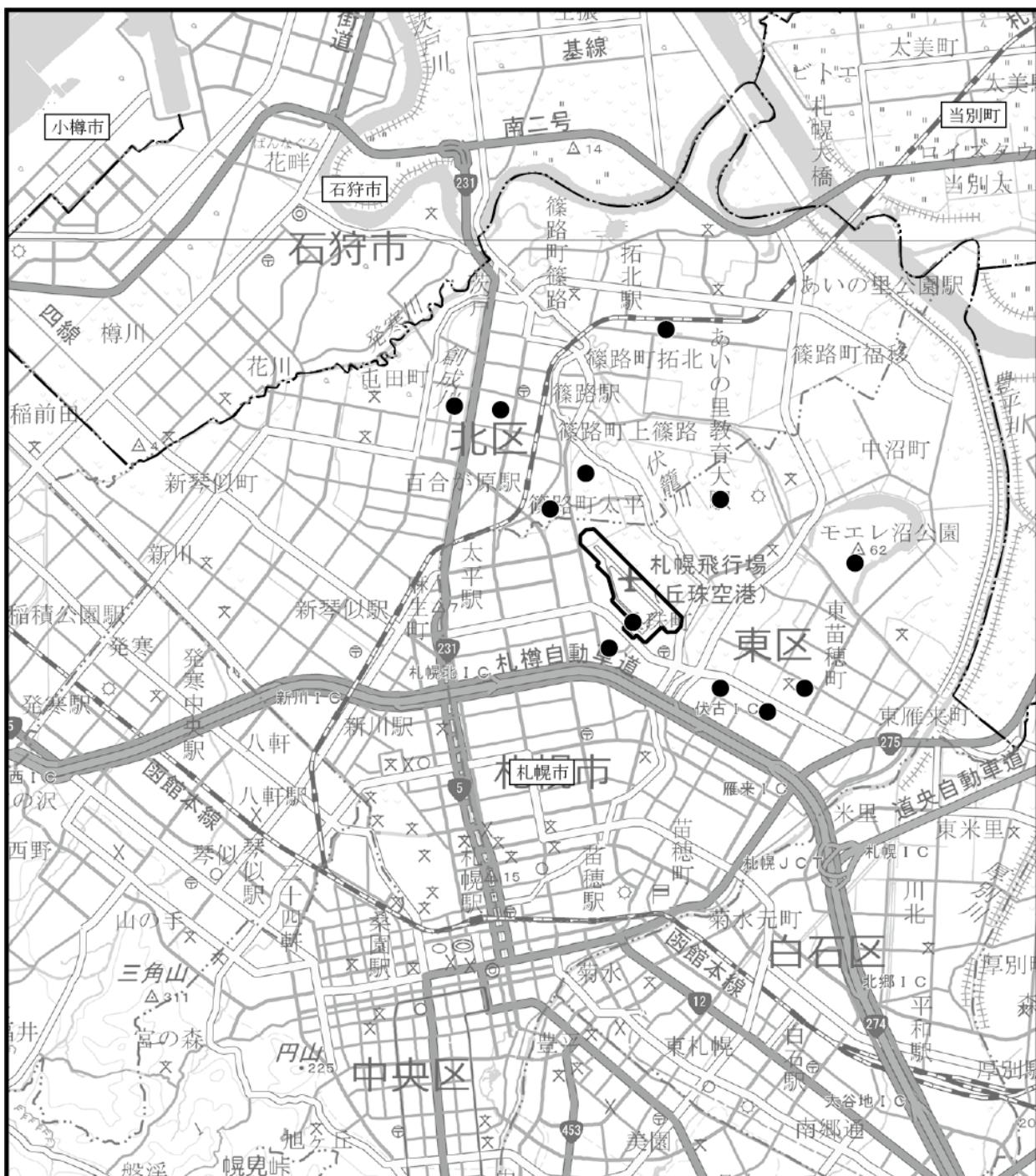
凡 例

図6.2-1(2) 騒音・振動に係る調査地点

- : 事業実施想定区域
- : 環境騒音・振動
- | : 道路交通騒音・振動、道路の状況、交通量の状況

N 1:25,000  
0 0.5 1km

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2万5千分の1を使用したものである。



### 凡 例

図 6.2-1(3) 航空機騒音・低周波音に係る調査地点

■ : 事業実施想定区域

—— : 市町界

● : 航空機騒音・低周波音

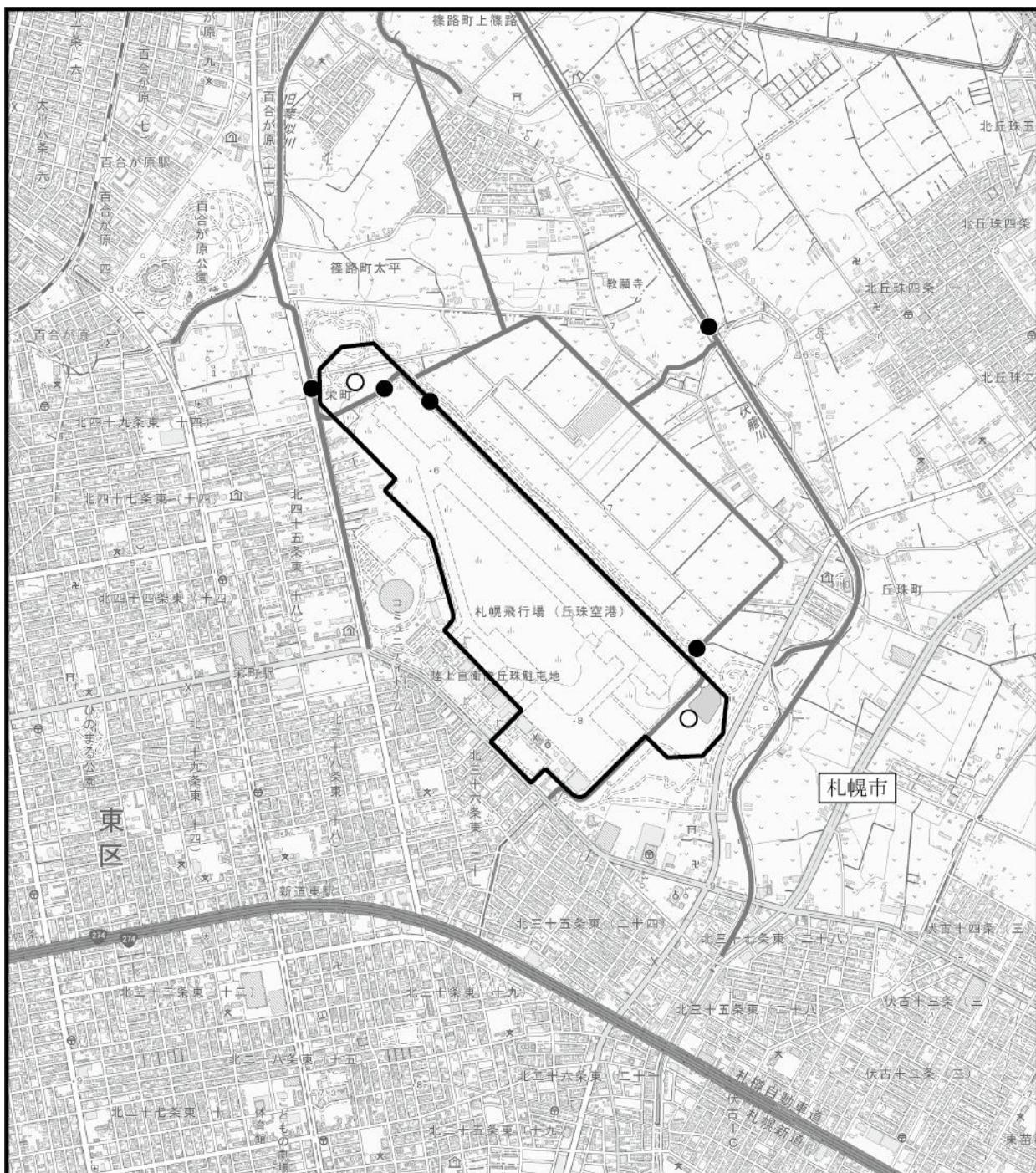


1:100,000

0 2.5 5km

注) 図の調査地点は令和6年度行政調査における地点である。  
実際の調査は最新年度の調査地点を対象とする。

この地図は、国土地理院発行の電子地形図20万分の1を使用したものである。



## 凡 例

図 6.5-1 水質に係る調査地点

: 事業実施想定区域

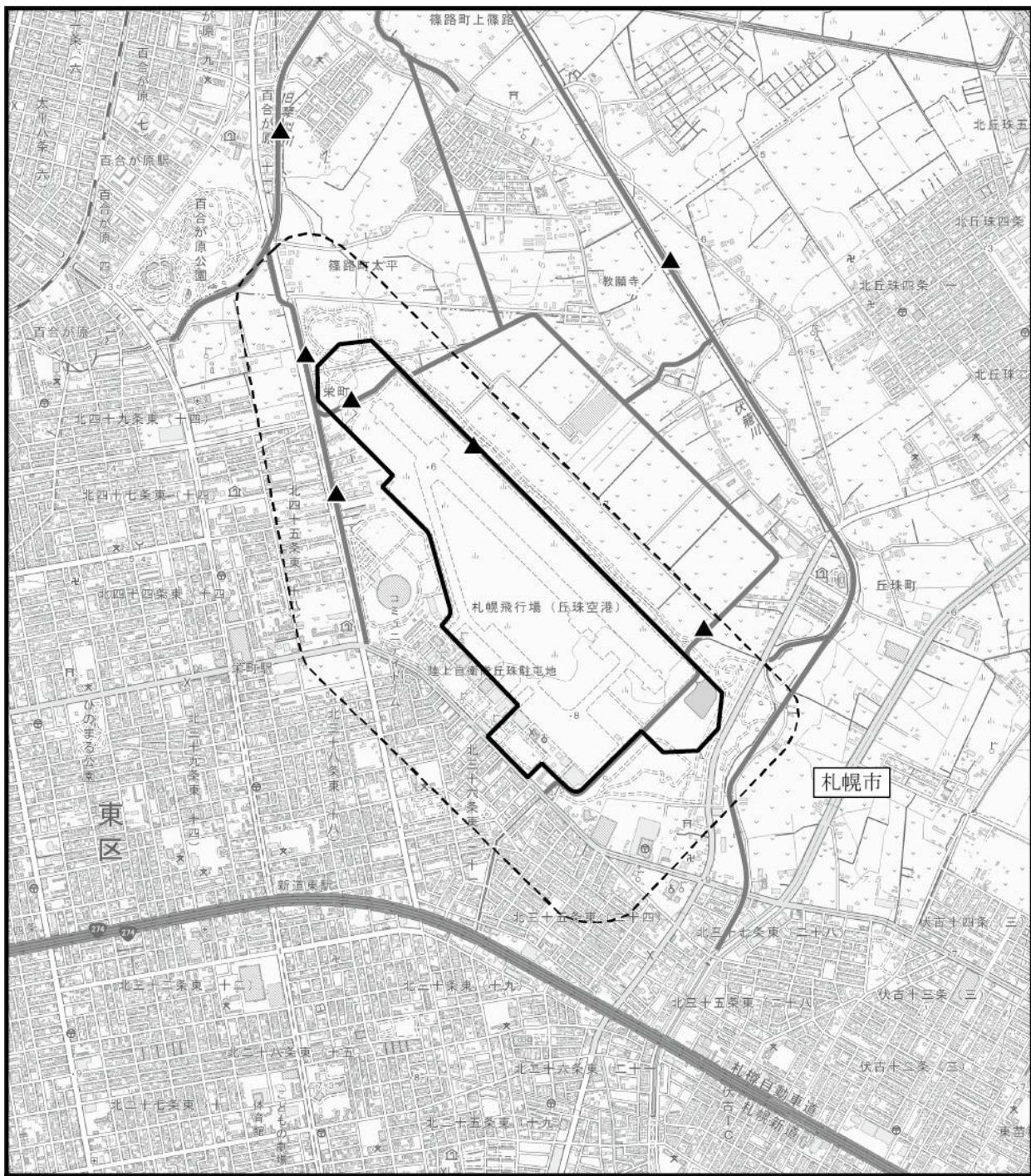
——：河 川

● : 水質 (水の濁り、水の汚れ : SS、T-N、BOD、COD、pH)

○ 水質 (土質: 粒度組成、沈降速度)

A compass rose is positioned on the left, showing North at the top. To its right is a scale bar with markings for 0, 0.5, and 1 km.

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2 万 5 千分の 1 を使用したものである。



凡 例

図 6.6-1 植物に係る調査地点

■ : 事業実施想定区域

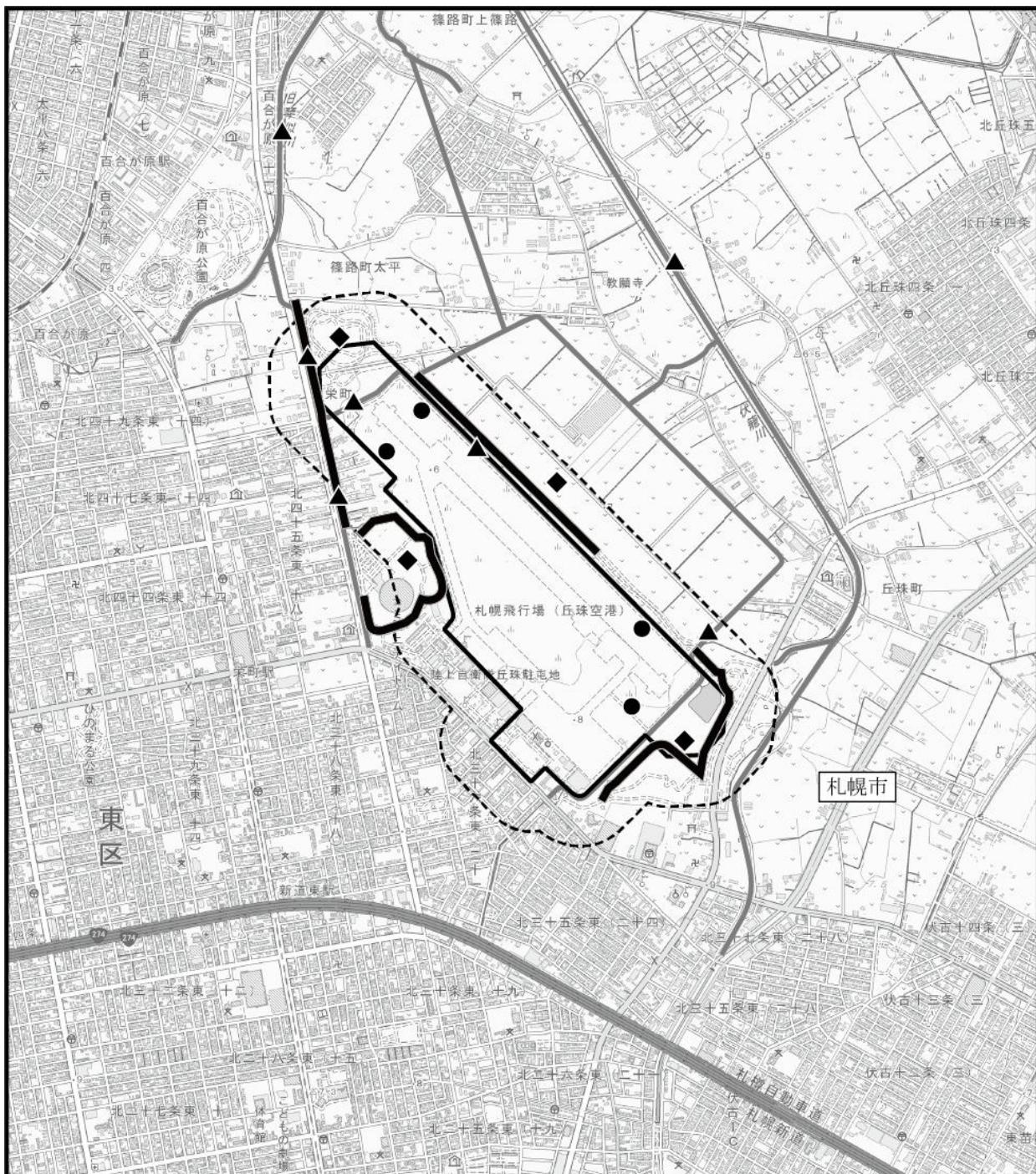
— : 河 川

〔 〕 : 陸生植物 (植物相、植生)

▲ : 水生植物 (植物相、植生)

N 1:25,000  
0 0.5 1km

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2万5千分の1を使用したものである。

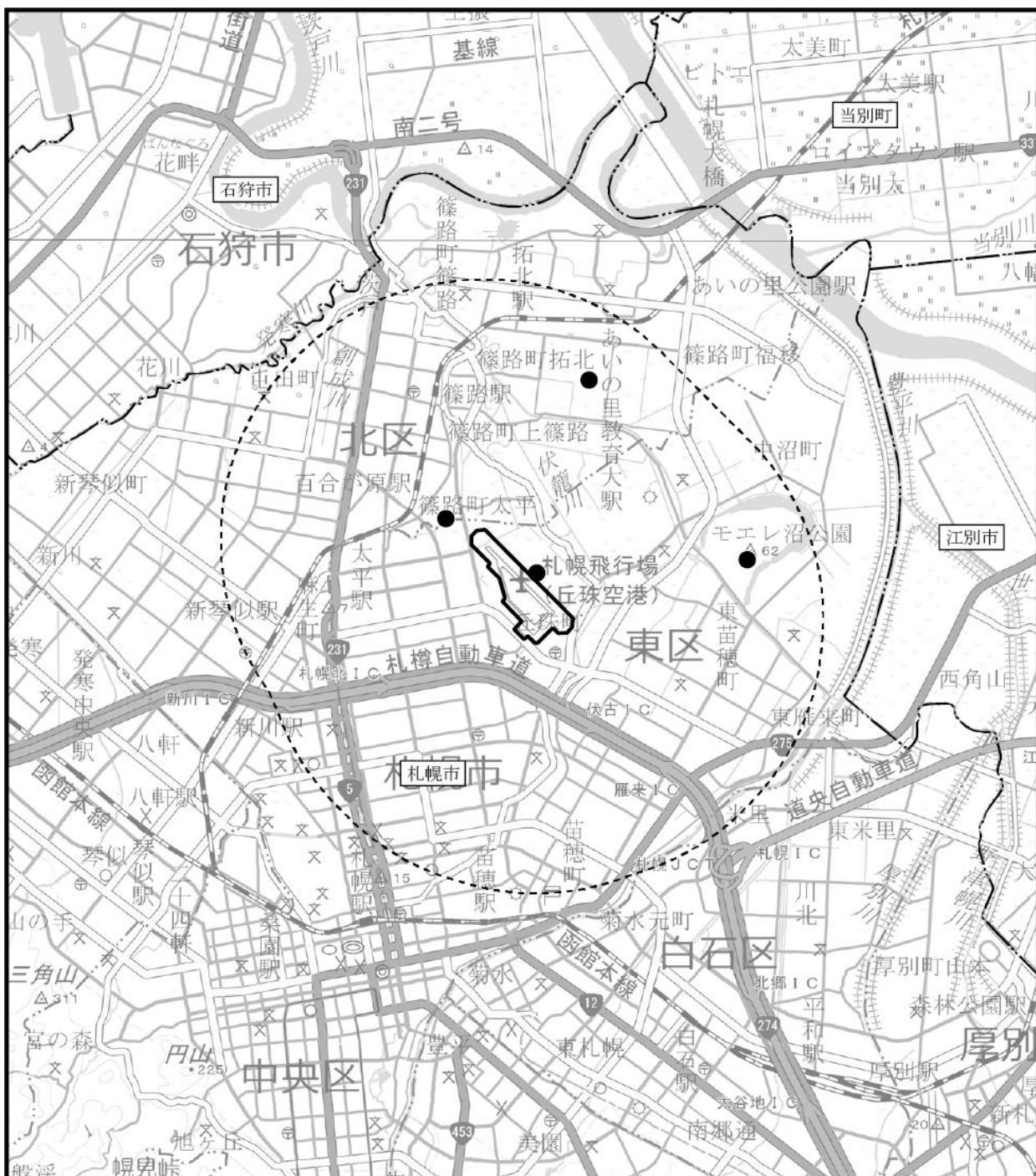


凡 例

図 6.7-1(1) 動物に係る調査地点

- : 事業実施想定区域
  - : 河 川
  - (---) : 陸生動物（哺乳類、鳥類、両生類、は虫類、昆虫類）
  - ◆ : 陸生動物（鳥類（一般））定点
  - : 陸生動物（鳥類（一般））ラインセンサス
  - : 陸生動物（鳥類（バードストライク））定点
  - ▲ : 水生動物（魚類、底生動物、その他の水生動物）
- N 1:25,000 0 0.5 1km

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2万5千分の1を使用したものである。



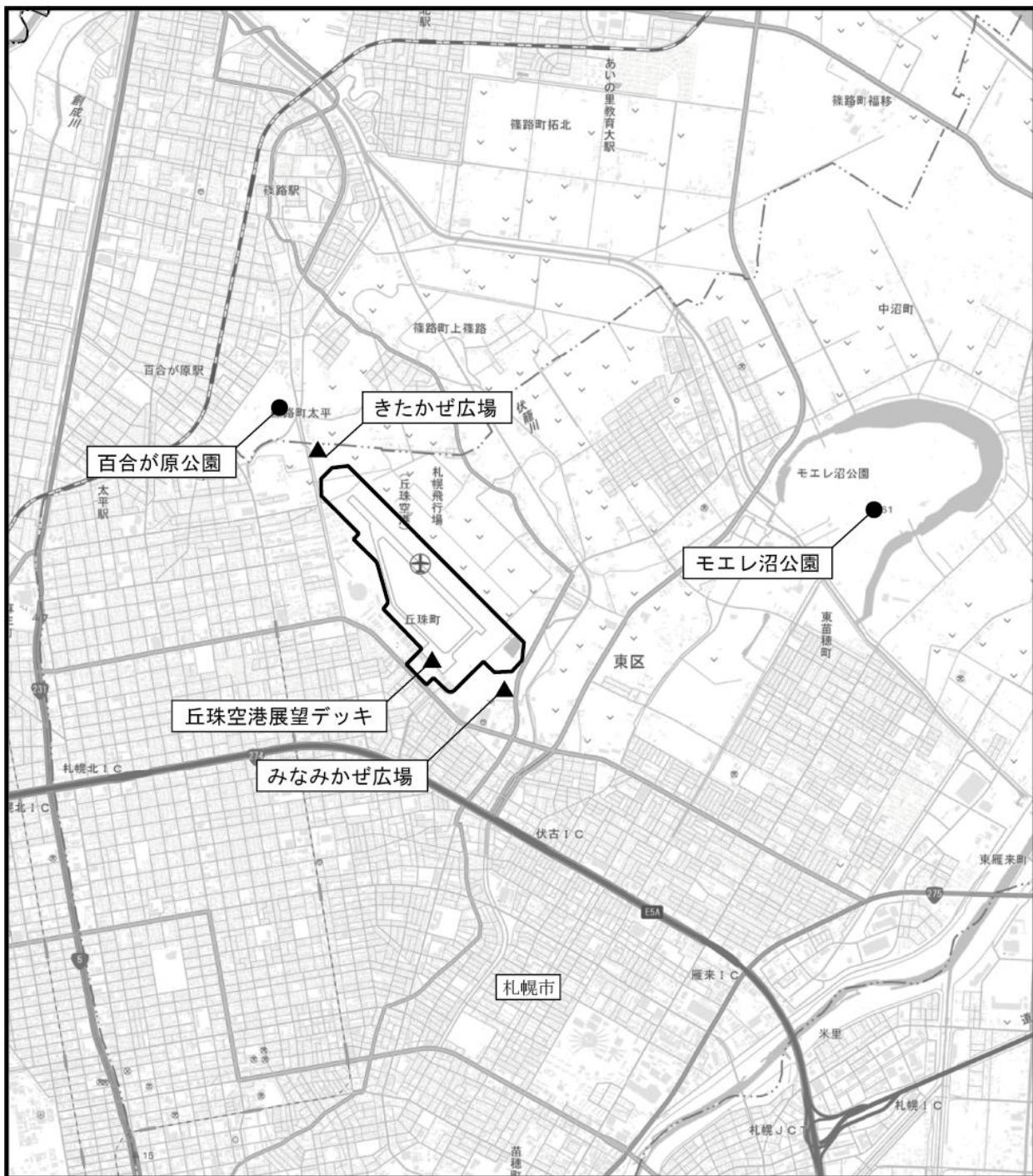
## 凡 例

図 6.7-1(2) 動物に係る調査地点

- : 事業実施想定区域
- : 市町界
- (---) : 陸生動物 (鳥類 (猛禽類))
- : 陸生動物 (鳥類 (猛禽類)) 定点



この地図は、国土地理院発行の電子地形図 20 万分の 1 を使用したものである。



## 凡 例

図 6.9-1 景観に係る調査地点



：事業実施想定区域



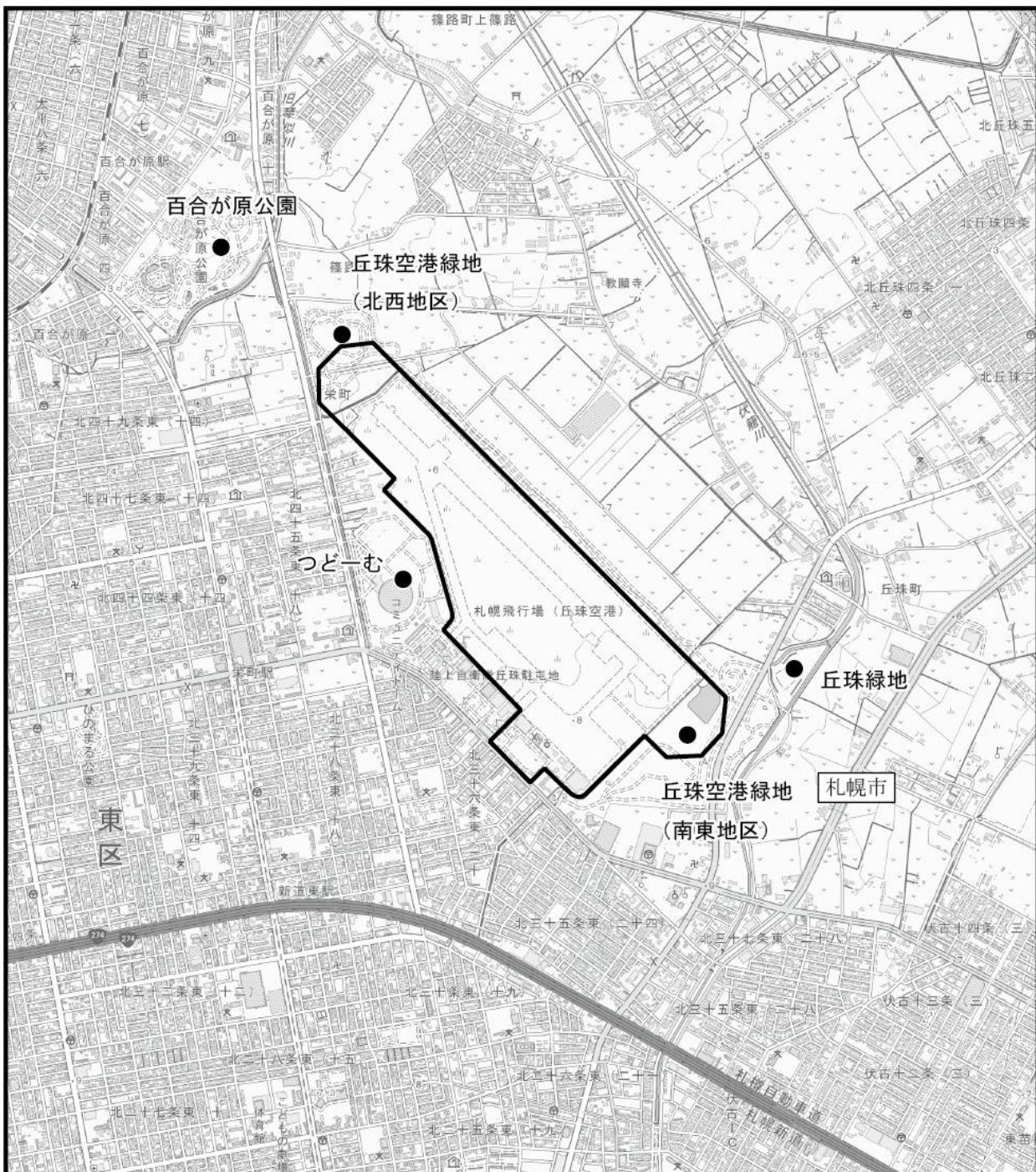
：市町界

● ：主要な眺望点（眺望景観の状況）

▲ ：主要な視点場（眺望景観の状況）



この地図は、国土地理院発行の電子地形図 20 万分の 1 を使用したものである。



凡 例

図 6.10-1 人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査地点

□ : 事業実施想定区域

● : 人と自然との触れ合いの活動の場

N  
1:25,000  
0 0.5 1km

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2万5千分の1を使用したものである。